

【①表現—D:表現技法】

■ぺたぺたぺったん

—形や色からイメージを広げよう—

●クイズでいろいろな形に注目！

学習に入る前に、いくつか型押ししたものを用意しておく。子どもたちにそれを見せながらクイズを出すと、「ボタンかな？」「星の形だ！オクラかな？」など、身のまわりのものや野菜などを連想していく。そうすると普段見ている野菜でも、半分に切ると切り口がおもしろい形のものや型押しすると違うイメージになるものがある、など「どんな形になるのだろうか？」ということに目を向け始めていく。

その後、「写したらおもしろそうなものを、集めておきましょう」と声をかけ、同時に、材料集めについて家庭に協力を依頼する。子どもたちが自分で探し、選ぶ時間を確保しておく。また、教師が様々な素材を集めておくことも必要なことである。図工室にある用具や材料（スポンジやたわし、針金、金網、ねじ、刷毛、歯ブラシなど）もよい。

●紙に写してみよう「連続って楽しい！」

自分で持ってきた材料をもとに、自由に型を押していく過程で、「たくさん並べてみたよ」「重ねてみるとこんな感じ」というように、子どもたちはつなげる楽しさを発見する。

まわりの子どもたちに広め、「組み合わせる」「波のようにならねる」「うずまき」「放射線状に広がる」など一つの形から、いろいろな模様ができることを見つけることを支える。また、色を変えて型押しすると、同じ模様でも違ったイメージになるなど楽しい発見もできる。

●友達の模様につなげてみよう

4、5人のグループで1枚の大きな紙（模造紙など）に型押しする場合は、「友達の模様につなげてみよう」と声をかけると、続き方や組み合わせ方を考えて、型押しする子も出てくる。

四角の連続模様の下に丸い型を押していき、「電車ができた！」と嬉しそうな顔。友達の押した形からイメージが広がり、電車ができた例である。一人では考えつかない模様を作ったり、絵を完成させたりすることもできる。一人での活動より、一層イメージがわく。

しかし、何人かで活動する場合は、言葉での交流も大切である。

「ここに続けていい?」「そこにこれを押したらどうかな?」など確認の言葉や「〇〇に見えるね」「いいね」などの賞賛の言葉があるとグループでの活動が、よりスムーズに運ぶ。こういう言葉も広げていきたいものである。

●最後に、自分を登場させてみよう

「えのなかであそんでいる ぼく・わたし!」

好きな色や形で型押しあそびをした後に、「絵の中に、自分を登場させてみよう」となげかけることも楽しい活動につながる。何色かの色でカラフルに型押ししているので、描く色は黒一色がよいと思う。「ふんわりと空に浮いている自分」だったり「模様の上に座って、ニコニコ笑顔の友達と私」、「滑っているぼく」など、子どもらしい自由な発想で楽しく描ける。自分を登場させることで、型押しあそびの絵が、より一層意味のある絵に仕上がる。

(神奈川県横浜市立西寺尾小学校教諭)